

国語科学習指導案

知的障害特別支援学級

3年 男子 1人

6年 男子 1人

計 2人

指導者 吐 師

陽 一

1 題 材 名 3年, 6年「紙人形をつくって, げきあそびをしよう。」

2 題材について

(1) 題材の価値

(3 年)

対象とする子どもは、絵本や挿絵の多い物語を好んで読むことが多い。場面ごとの絵を助けにして、親しみやすい文章で書かれた物語の大まかなあらすじをつかみ、物語の楽しさを味わう様子が見られる。しかし、物語を音読するという体験が少なく、言葉を声に出して味わう楽しさについては、まだ気付いていない面がある。また、文章の内容を大まかにつかむことができるが、音読をする際には細かなところを読み間違ってしまうことがある。

そこで、本題材では紙人形劇遊びを学習に取り入れることで、子どもが物語を音読したり、登場人物の動きを想像して人形を動かしたりなど、子どもにとってこれまであまり経験していない物語の味わい方を意欲的に取り組むことができるようにする。そして、実際に自分が登場人物になって音読していくことを通して、セリフの一つ一つを大切にし、正しく音読していこうとする態度を身につけることができるようにする。

指導に当たっては、子どもの意欲を高め、紙人形劇遊びについての見通しをもつことができるように簡単な紙人形劇遊びを題材の最初に取り組むようにする。また、本題材で音読をする時、気をつけることを提示し、ふりかえりカードなどでチェックを行うようにすることで、子どもが意識して良い音読を目指し取り組むことができるようにする。そして自分用の紙人形を作り、6年生の友だちと一緒に劇遊びを行っていくことを通して、物語を協力して音読する楽しさを味わっていくことができるようにする。さらに他のクラスの友だちの前で発表をすることで、新たな学習への意欲を高めることができるようにする。その際、教師も劇の中に入って必要に応じて支援を行うことで、自分でできたという達成感を十分味わうことができるようにする。

このような学習を通して、これから子どもが物語を読み味わう際に、目で読むだけでなく、音読するという読み方にも取り組むことができるようになり、そのことが更に物語を深く味わうための一つの助けになっていくと考える。また、友だちや教師、保護者の前で音読を基にした劇を発表することができたという喜びや成 sense は、子どもの自己評価を高め、もっと頑張ろう、もっとできるようになりたいという思いにつながり、これからの国語科の学習活動への意欲を高め、更に楽しく豊かな活動を引き出すことができると考える。

(6 年)

対象とする子どもは、絵本や挿絵の多い物語を読むことを好んでいる。しかし、文字だけの文章や物語については、なかなか自分から進んで取り組むことは少ない。また、物語や説明文の内容については、図や挿絵を手がかりに大まかな内容を捉えることはできるが、段階をおって順番に説明されている文章を、一つ一つ正しく読み取っていくことは苦手であり、困っている様子が見られる。

そこで、本題材では、紙人形劇遊びを学習に取り入れることで、紙人形を作って遊んだり、自分の体を使って表現したりといった楽しさを味わい、学習に意欲的に取り組むことができるようにする。そして、必要な紙人形を自分の手で作るという目的を持たせ、そのために必要な説明文を準備することで、子どもが意欲的に説明文を一つ一つ順に正しく読み進めていくことができるようにする。

指導に当たっては、紙人形作りや、紙人形劇遊びに意欲的に取り組むことができるように、紙人形の見本となるものを教師が事前に準備し、題材の導入で簡単な紙人形劇遊びに取り組むようにする。また、準備する紙人形を作るための説明文については、順序に従って正しく読み取ることに慣れさせるために、教科書の教材文を基に、教師が子どもの実態に合わせて適切な接続語を加えた教材を自作し、提示するようにする。そして、その紙人形を作るための説明文を拡大し教室に掲示していつでも確認できるようにするとともに、学習の進め方を音読したり、実際に書き写したりするなどの活動を通して、見通しをもって活動に取り組む、内容を確実に読み取ることができるようになる。さらに学習の最後に作った紙人形を使って劇遊びを行うときには、その登場人物の特徴やそのときの心情を尋ねることを通して、物語の内容にも触れながら音読することができるようにする。その際、教師も劇の中に入って必要に応じて支援を行うことで自分でできたという達成感を十分味わうことができるようにする。

このような学習を通して、将来の生活において身の回りの様々な説明書に接したときに、説明の順序に従って読み進め、その内容を理解したり、説明の通りに行動したりできるようになると考える。また、友だちや教師、保護者の前で自ら説明文を読んで作り上げた紙人形で劇を発表することができたという喜びや成 sense は、子どもの自己評価を高め、もっと頑張ろう、もっとできるようになりたいという思いにつながり、これからの生活を更に楽しく豊かにしていくことになると考える。

(2) 題材の目標

進んで人形劇遊びに取り組み、楽しく音読しようとする。
登場人物の気持ちを、簡単な言葉で表し発表することができる。
一つ一つの言葉を丁寧に音読することができる。
例文を見ながら簡単な招待状を書くことができる。

進んで人形作りの説明文を読みとろうとする。
紙人形作りの説明文を、接続語に注目して順序に従って、正しく読み取ることができる。

(3) 子どもの実態（題材に関する実態）

| | 学習への意欲 | 読むこと |
|----------|---|---|
| A児 3年 | ・絵本や挿絵の多い物語を好んで読んでいる。挿絵を見ながら物語の楽しいところを味わうことが多い。自分から進んで音読することは少ない。 | ・挿絵や写真を参考にしながら、物語のあらすじを大まかに読み取ることができる。セリフや描写から登場人物のごく簡単な心情を理解することもできる。 ・簡単な詩や、短い文章をはっきりとした発音で音読することができる。実際に音読する際、文中の助詞を変えたり、とばしたりなどして、正確に音読することは苦手である。 |
| B児 6年 | ・絵本や挿絵の多い物語を好んで読んでいる。説明文は挿絵のあるものを好むが、説明を順番に読み取っていくことは苦手である。 | ・説明された文章の大まかな内容は読み取ることができる。説明の内容を順に一つずつ読み取り、活動を進めていくことについては困難を感じていることが見られる。 ・簡単な詩や、短い文章を正確にはっきりとした発音で音読することができる。登場人物の心情を想像して、音読の仕方を工夫することは非常に難しい。 |

3 指導に当たって

本学級の国語科の指導に当たっては、子ども一人一人が学ぶことを楽しむことができるように、以下の点に留意して指導していく。

研究の視点1「教育的ニーズに応じた年間指導計画・指導内容一覧の作成」

- ・ 3年生については、国語科の基礎的基本的な内容を満遍なく経験できるように年間指導計画を作成し、その子どもの得意なこと不得意なことを確認するとともに、一つ一つの内容について子どもなりに成長できるように指導する。本題材では、特に、「読むこと」を中心に題材の目標を設定し、子どもの教育的ニーズに応じることができるようにする。例えば、6年生については、これまで培ってきた基礎的基本的な内容のうち、「聞くこと・話すこと」「読むこと」を中心に年間指導計画を作成し、その子どもの将来の生活にとって必要な内容やさらに伸びそうな内容を選択して指導する。例えば、本児童の教育的ニーズとして、いろいろな場面で、他の人の話と説明文を基に、指示通りに行動することができるようになるとあることから、この題材の教材として、紙人形作りの説明文を取り入れ、自分で紙人形作りを行っていきけるようにする。

研究の視点2「子ども一人一人がめあてをもち、生き生きと活動する授業づくり」

- ・ 子どもの物語に対する興味、関心や読むことについての実態を把握するために、家庭に対して題材について事前のアンケートを行って、子どものこれまでの読書歴や読書の傾向を調べるようにする。また学校でも普段の学習や読書の実態を見取るようにし、多様な面から情報を集め、その子にとっての最近接領域の学習目標を決定する。【研究の視点2 - イ】
- ・ めあては、「紙人形をつくらう」、「大きな声で読もう」など、この時間で何をするのかということが子どもに分かる行動で示すとともに、必ずその一単位時間で達成できるものにする。【研究の視点2 - ウ】
- ・ 子どもの活動したいという欲求を引き出すために、活動の中に紙人形作りといった工作や、物語を言葉に出して読んだり、人形をセリフに合わせて動かしたりといった身体の動きを伴ったものを多く取り入れることで、子どもの集中力が継続するようにする。【研究の視点2 - エ】
- ・ 子どもが達成感を十分に味わうことができるように、めあてが達成できたと子ども自身がはっきり感じられるように、活動の様子を録音、録画したり、作ったものを掲示したりなどの工夫を行うようにする。【研究の視点2 - エ】
- ・ 学習のはじめには、簡単に短い紙人形劇を準備しておき、紙人形劇の進め方や、紙人形のしくみをつかみ、紙人形劇の楽しさを味わうことができるようにする。そして、紙人形劇遊びという大きな活動の目標を意識付け、活動に対する子どもの意識がつながっていくようにする。【研究の視点2 - エ】
- ・ 物語を読み、登場人物の心情を考えていく活動や、説明文を読み取って紙人形作りを行っていく活動で、活動の資料としてビデオや写真など視覚に訴える教具を準備し、活動に対して「できる」という見通しをもつことができるようにする。【研究の視点2 - エ】

研究の視点3「学んだことが生活で生きるための家庭や在籍校との連携」

- ・ 毎時間の指導に関しては、連絡帳等で保護者に知らせるとともに、学習した内容を家庭でも確認して、子どもを褒めたり、認めたりしてもらうようにする。そして、音読を録音したテープや、作った紙人形といった学習で活用した教材を家庭に持ち帰り、親子で物語を読み合ったり、紙人形を使って遊んだりして、学校、家庭が一体となった学習を進めていくことができるようにする。
- ・ 子どもが達成感を十分に味わうことができるように、学習の終わりに「あすなる学級」や「交流学級」の友だちだけでなく、それぞれの保護者に対しても機会を設け発表を行うようにする。また、学習した内容に対して、これからも意欲的に取り組んでいけるように、発表した内容についての保護者の感想を書いてもらい、子どもたちに読み聞かせてあげるようにする。

4 指導計画（全11時間）

| 時間 | 主な学習活動（3年・6年） | 教師の支援 |
|----|---|---|
| 2 | 紙人形をつくって、げきあそびをしよう。 1 教師の準備した短い物語について、紙人形を使って、簡単な劇をして楽しむ。 ・ 日本の民話を読み、演じてみたい役を選び、友だちと協力して劇に挑戦する。 | ・ 教師が中心になって劇遊びの役割分担などを進め、活動を盛り上げる工夫を行うことで、劇遊びの楽しさを十分味わい、活動への意欲を高めるようにする。 |
| 1 | 2 「紙人形げきあそび発表会」の計画を聞く。 3 「ねずみのすもう」(日本の民話)の物語について、教師の読み聞かせを聞く。 | ・ 子どもにとって難解な語句については、国語辞典で調べるようにしたり教師から説明を行ったりして、教室に掲示する。 ・ あらすじを理解しやすくするために、登場人物一人一人について、名前や特徴を書いたカードをつくり教室に掲示を行う。 |

| 時間 | 主な学習活動（3年） | 時間 | 主な学習活動（6年） |
|--------------------|--|--------------------|--|
| 3 | 4 それぞれの場面のお話を読み取る。 学習の進め方 (1) 教師の読み聞かせを聞く。 (2) 教師と一緒に音読する。 (3) 役割読みや動作化を取り入れた音読をする。 (4) 登場人物の気持ちや場面の様子で気付いたことを簡単な言葉でワークシートに書き表す。 (5) 音読の練習をして、「読み読み名人チェックカード」に記録する。 | 3 | 4 説明文を読み、まとめた内容を基に紙人形を作る。 学習の進め方 (1) 説明文を音読する。 (2) 文中の順番を示す接続語を順序よくワークシートに抜き書きする。 (3) それぞれの段落の内容が書かれたシールを接続語に合わせて順番通りにワークシートにはり付ける。 (4) 教師と一緒にワークシートを順番に音読する。 (5) ワークシートを使って、読み取った通りの手順で紙人形の製作を行う。 |
| 本時 6 / 11 | 読み聞かせの時や、動作化、役割読みを行う時は、教師も積極的に活動し、楽しい雰囲気を作り上げるようにする。 登場人物の気持ちに迫る子どものつぶやきや思いは、板書し残していくようにする。 音読の練習を録音し、振り返るようなことで、頑張ったところや自分自身の成長を感じることができるようになる。 5 自分で紙人形をつくり、練習を行う。 自分で作った紙人形を使うことで、意欲的に音読の練習ができるようにする。 | 本時 6 / 11 | 教科書の文章に順序を示す接続語を加えた説明文を準備し、提示するようにする。 ワークシートには番号を付け、ワークシートに書き込む時や、音読するときなど接続語と順番の関係を意識できるようにする。 5 他の登場人物の紙人形や小道具・背景作りにも挑戦する。 説明文の内容を変えていくことで、読み取りの練習を繰り返し行い、さらに新しい接続語を学習できるようにする。 |

| 時間 | 主な学習活動（3年・6年） | 教師の支援 |
|----|------------------------|---|
| 2 | 6 友だちと協力して、紙人形劇の練習をする。 | ・ 練習の前に教師も交えて、役割読みを行って、物語の流れや劇の仕方を確認するようにする。 |
| 1 | 7 招待状を書く。 | ・ 件名、宛先、日時、場所等を空欄にした例文を提示するようにする。 |
| 2 | 8 紙人形劇を発表し、感想をまとめる。 | ・ 見てくれた友だちにも感想を書いてもらい、本人の感想と交換してお互いに読み合わせることで、達成感を感じさせ、相手とのつながりを意識できるようにする。 |

5 本 時 (6 / 1 1)

(1) 目 標 (個人目標)

| | |
|----------------|---|
| A 児 (3 年) | 一つ一つの言葉に気をつけながら，声の大きさ，読む速さを意識して音読することができる。 その場面の様子を読み，登場人物の気持ちを簡単な言葉で書くことができる。 |
| B 児 (6 年) | 順番を示す接続詞に着目して，紙人形作りの進め方を正しく読み取り，ワークシートにまとめることができる。 |

(2) 展 開

| 過程 | 時間 | 主 な 学 習 活 動 (3 年) | 主 な 学 習 活 動 (6 年) | 時間 | 過程 |
|----------------------------|----|--|--|----|----------------------------|
| つ か む | 10 | 1 音読のための準備運動を行う。 ・体ほぐし ・口の運動 ・早口言葉 | 1 音読のための準備運動を行う。 ・体ほぐし ・口の運動 ・早口言葉 | 2 | つ か む |
| | | 2 言葉に出して読む「言葉遊び」をする。 3 前時までに学習した場面の音読をする。 | 2 学習計画を確認する。 3 本時のめあてを確認する。 | | |
| み と お す | 4 | 4 本時のめあてを確認する。 言葉に出してお話を読んで，本読み名人になろう。 (1) めあてを言葉に出して読む。 (2) めあてをワークシートに書き写す。 | 4 「読み取り名人」になる方法を確認する。 (1) 説明文を言葉に出して読む。 (2) 文の中の作る順番が分かる言葉をワークシートに書く。 (3) その順番に合わせて，中身シールをはる。 (4) できあがったワークシートを言葉に出して読む。 | 4 | み と お す |
| | | 5 「本読み名人」になる方法を確認する。 「ほ」本読むはやさ気をつけて 「ん」うーんといい笑顔で読む。 「よ」よく見て正しく読む。 「み」みんなに聞こえるように。 | 5 説明文を読み取って，ワークシートを完成させる。 | | |
| か つ ど う す る | 25 | 6 教師と一緒に音読や，役割読み，動作化した音読を行う。 先生と一緒に読んだり，体を動かすのは楽しいな。 登場人物の言葉を読んでいたら，こんな気持ちになったよ。 | 作り方と順番の分かる言葉を見ればよいな。 読み取り終わったら早く作りたいな。 | 33 | か つ ど う す る |
| | | 7 学習する場面の様子や登場人物の気持ちを簡単な言葉で，ワークシートに書き入れる。 8 本読み名人目指して，音読の練習をする。 練習した読みを録音したよ。聞いてみよう。 「ほ・ん・よ・み」を守って読んだから名人になれたよ。 | 6 ワークシートを基に，一つの手順ごとに音読して紙人形を作る。 作り方を音読して確かめるようにしよう。 読み取った紙人形を完成させよう。読み取り名人になれたよ。 | | |
| ふ り か え る | 6 | 9 6年生と一緒に本時の学習について振り返る。 | 7 作った紙人形を使って，音読をする。 | 6 | ふ り か え る |
| | | 10 次の学習について知る。 | 8 3年生と一緒に本時の学習について振り返る。 9 次の学習について知る。 | | |